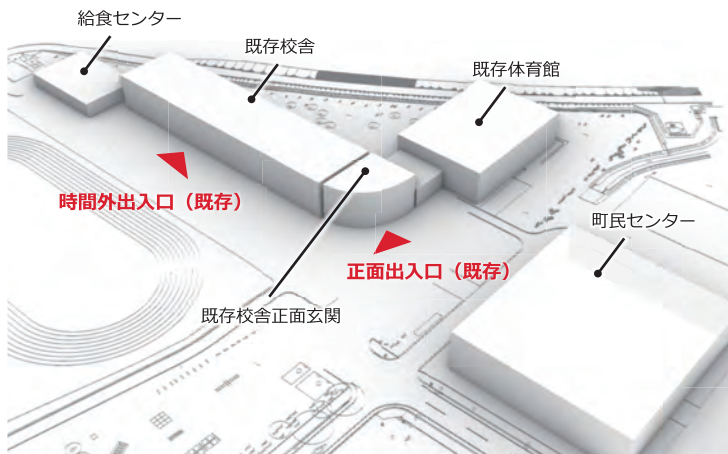
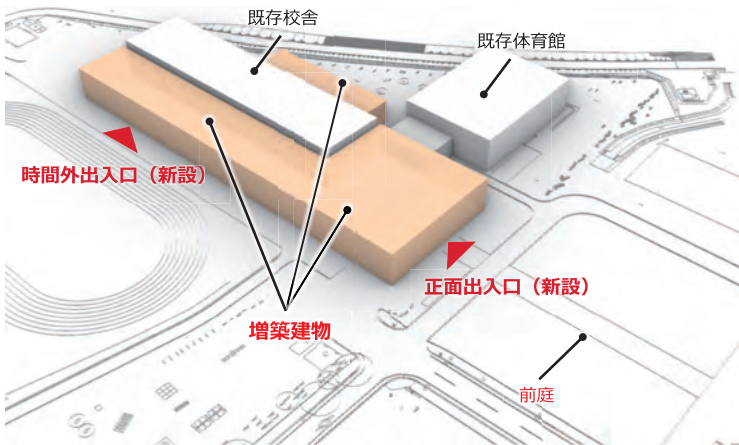


現在の建物配置



新校舎での建物配置



改築のプロセス

- ・既存の校舎の正面玄関部分を一部解体し、既存体育館と既存校舎をつなげて広げるように増築棟を新設します。
- ・既存校舎の北側に2層の、南側に1層の、増築棟をそれぞれの位置に新設します。
- ・既存校舎を西側、北側、南側一部を囲むように新設等を設置し、既存校舎における外的劣化要因の影響を小さくし、既存校舎の外壁部分は外断熱化工事を施します。
- ・町民センターは解体を想定し、建物西側に正面出入口を設けます。
- ・老朽化の著しい給食センターは解体し、給食厨房を増築棟の1階に計画します。
- ・既存校舎を改修しつつ、取り囲むように増築棟を計画します

※ 今後、工期スケジュールの見直しなどに伴い、変更となる可能性があります。

図2：中頓別学園立体図

で行きます。また、既存の町民センターや給食センター、小学校玄関部分は解体され、増改築が行われます。(図2参照)

施設構成としては、9学年制の義務教育学校となることや町民センターを一体化することから、子どもから大人まで生涯利用できる創造的な学びの場づくりを行っていきます。図3のように学校機能としての「義務教育学校ゾーン」、「地域及び学校共用ゾーン」、社会教育施設としての「社会教育ゾーン」として3つに分かれることとなります。学校施設のうち図書室や特別教室、運動施設、ランチルームなどは児童や生徒、町民の誰もが利用できる「地域及び学校共用ゾーン」となります。

中頓別学園の予算について

中頓別学園は、中頓別小学校の大改修と中頓別中学校の移転建て替えて新しい9年生の義務教育学校にすることに加え、町民センターの機能も校内へ移転、図書機能を拡充します。建築費、工事費は45億円となっていますが、個別に取り組んだ場合の総事業費と比較するとおよそ3割ほど削減できる計画となります。また、小学校校舎の外壁を新しい建物で覆ったり、外断熱や防水などの改修を適切に行うことで、長持ちさせることができます。これらが実現することで、毎年のランニングコストや将来の改修などといったコストを大きく削減することもできます。

現時点の工事費に対する財源の内訳としては、国庫補助金が12億円、起債(借金)が32億円、一般財源が1億円となっています。償還(返済)のシミュレーションでは、令和11年から償還が始まり、この時点での総額は、およそ10億円となりますが、この内9.9億円は地方交付税として措置される見込で、残りの差額を一般財源から負担していきます。

後年度の償還に対する負担を少しでも抑えることができるよう国の補助制度を活用するなど最大の財源確保に努めるほか、行政改革による財政安定化を図っていきます。

1 階平面図 社会教育ゾーン（教育委員会+デイサービス）

地域及び学校共用ゾーン

義務教育学校ゾーン

2 階平面図

地域及び学校共用ゾーン

義務教育学校ゾーン

社会教育ゾーン（子育てコーナー+学童）

図3：中頓別学園平面図

町民アンケートの実施

8月末までに町民アンケートも実施しており、61世帯から回答がありました。社会教育施設と義務教育学校を融合した中頓別学園を建設する計画があることを知っていたと答えた方は、55世帯でした。さらに、これまでの経過や計画、施設の概要などを理解していただけたかという問いに対して、47世帯の方が理解を示しています。詳細な結果は、別途お知らせしますので、もう少しお待ち下さい。

今後のスケジュールについて

令和8年度の開校を目指し、令和4年4月に策定された基本構想を基に基本計画の策定が令和5年3月に行われました。また、8月に建設基本設計が完成し、令和6年3月に建設実施設計の完成が予定されています。工事については、令和6年度中に着工となる予定です。同時に、小学生は、中頓別学園完成まで、現在の中頓別中学校校舎を活用し、学校生活を送っていきます。

□基本計画・基本設計・実施設計とは？

条件を洗い出し、施設規模・概算工事費などを決定する「基本計画」、基本計画に基づき、様々な可能性を比較検討し、プラン、仕様概要を決定する「基本設計」と進んでいきます。この基本設計に基き、詳細を決定し、工事見積用図面を作成する「実施設計」を作成し、工事が始まっていきます。

□一般財源とは？

町の収入のうち、使い道が指定されていないお金のことで、町税、地方交付税交付金などが入っています。なお、使い道が特定されたお金を特定財源といいます。これは、国や北海道などから交付される補助金などが含まれています。